

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年5月23日 NO.15



オー君 「ねえ、モンタ博士、また『ノビル』のお話をして下さい。」

もんた博士「そうだね。それじゃ、この前、ネギの葉っぱは、どこなのかなという質問をしていただろう。ノビルもネギも同じ仲間だから、植物としてのネギのお話をしよう。」

オー君 「ネギと言えば、きのう、おなかがすいておうちに帰ったら、な、な、なんと、ばんご飯（はん）は、おいらの大好きなスキヤキだったんだ。」

モンタ博士「なに！スキヤキ！モンタ博士も大好きだね。長ネギがまたうまいんだよね。熱の加えられたネギはあまみをかもし出して、最高だ。それから、ネギは肉（にく）のくさみもとるんだ。」

花ちゃん 「モンタ博士、こまっちゃいますね。今日は、スキヤキの話ではなく、ネギを植物として見ようということです。いっしょに考えてください。」

モンタ博士「ごめん×2。それじゃ、問題だ。植物は何と何と何からできていますか。」

花ちゃん 「それは、もちろん。えーと、根（ね）と茎（くき）と葉っぱです。」

モンタ博士「よくできました。その通りだね。花というのもあるけど、花は、葉っぱが変化したものなんだけど、そのお話はまとそのうちね。ところで、ネギの根と

茎と葉っぱを考えてみよう。この場合、まず長ネギのことから考えよう。ネギをスーパーなどで、『土つきネギ』というのを見たことあるかな。」

オー君 「この前、買ったのは土がついていたよ。きれいにあらってないネギだったよ。」

モンタ博士「それじゃ、そのネギを一本持って来てくれないかな。」

ということで、オー君の持ってきた長ねぎを、ほうちょうでスパッと切ったとき…

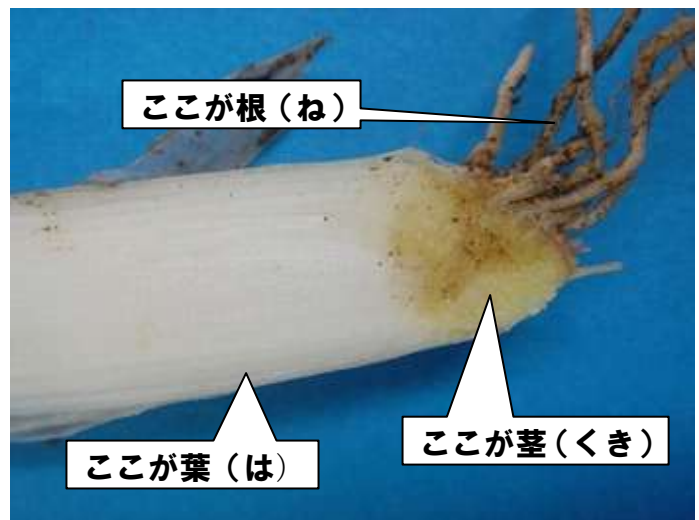
モンタ博士「下の写真を見てごらん。右に根っこがでているね。」

花ちゃん 「ほんとだ。いままであまり気がつかなかったわ。どうみても、これは根っこですね。それじゃ、茎と葉っぱはどこにあるのかしら。」

オー君 「ふーむ。わかんないなあ。」

モンタ博士「根っこが出ている所のすぐ左の色のちがうところがあるだろう。そこがとても固い所で、そこが茎さ。」

花ちゃん 「ふーむ。ネギって、とても茎が短いんですね。ラーメンを作った時に、かたいから捨ててしまう所が本当は茎なのね。」



オー君 「タマネギでも同じだ。タマネギの下の部分にも、とてもかたい所があるよ。」

花ちゃん 「ということは、私たちが食べている所は葉っぱということ。でも、何でネギの葉っぱって丸くなっているのかな。また分からなくなったわ。」

モンタ博士「それはね、説明(せつめい)がむずかしくなるけどね、二人とも手を出してジャンケンのパーを出してごらん。それを葉っぱとするよ。手のこうが葉のうらで、手の平が葉の表だね。そのパーの小指と親指をくっつけるようにして、両手を合わせてごらん。ネギみたいにならないかな。」

オー君 「そうか、何十人も手を合わせたようにしたらネギみたいになるんだ。」

モンタ博士「そうだね。つまり、ネギは葉っぱが葉っぱをつつんでいるんだよ。」

花ちゃん 「モンタ博士は手のこうが葉っぱのうらといったでしょ。ということは、私たちがふつつ見えているネギは全部が葉っぱのうらだけということね。」